

中央・小川デザインプロジェクト  
～次の世代の施設を考えよう～

〈アンケート報告書〉



小平市  
令和元年6月

## 目次

1. アンケート調査の目的 .....	1
(1) 中央・小川デザインプロジェクトの概要 .....	1
(2) アンケートの実施概要 .....	2
① アンケートの概要 .....	2
② アンケートの実施方法 .....	5
③ アンケートの集計結果 .....	6
報告書の見方 .....	7
2. 全体的な集計結果と傾向 .....	8
(1) 回答者の傾向 .....	8
(2) 各種回答傾向 .....	9
3. 中央エリア・小川エリアの集計結果と傾向 .....	14
(1) 回答者の傾向 .....	14
(2) 各種回答傾向 .....	16
(3) 近隣住民に特化した傾向と分析 .....	21
4. 対象分類別集計結果 .....	26
(1) 学生 .....	26
(2) 在勤者 .....	29
(3) 子育て世代 .....	33
(4) 障がい者 .....	38
5. アンケートの結果から .....	42
(1) 公共施設への認識・関心について .....	42
(2) 公共施設の複合化等について .....	42
(3) 民間活力の活用や有料化の考え方について .....	43
(4) これからの公共施設へのニーズについて .....	43
(5) 小川駅西口駅前市民広場へのニーズについて .....	43
<参考資料> .....	45

# 1. アンケート調査の目的

## (1) 中央・小川デザインプロジェクトの概要

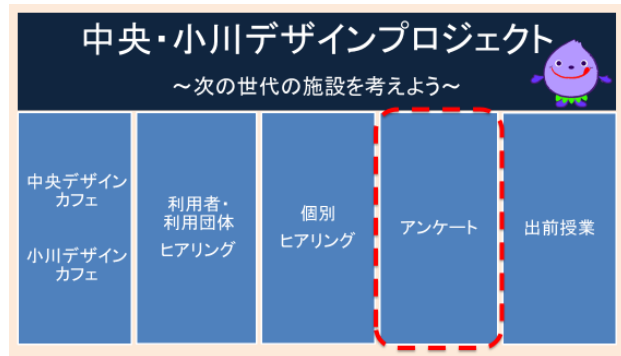
小平市では、将来の人口減少、少子高齢化や施設の老朽化など、公共施設を取り巻く環境の変化を見据え、公共施設の延べ床面積の適正化や魅力あるサービスの実現等に向けて取組む公共施設マネジメントを「小平市公共施設マネジメント基本方針」及び「小平市公共施設マネジメント推進計画」に基づき進めています。

これらの方針及び計画を踏まえ、「(仮称)中央公民館及び健康福祉事務センターの更新等に関する基本計画」及び「(仮称)小川駅西口地区市街地再開発事業公共床等の整備基本計画」(以下、「基本計画」という。)を策定するための検討を進めています。

小川駅西口地区市街地再開発事業にて取得する公共床及び市民広場用地では、駅隣接の利便性やさらなる駅前のにぎわいを創出することを目的とした検討を行い、また、老朽化が進む中央公民館周辺エリアの機能再配置等も含め、一体的に検討を進めています。

これらの諸施設の整備に当たり、行政機能の向上を図るとともに、将来的なニーズを意識しながら、量の豊かさから質の豊かさへの転換に向けた次の世代の公共施設づくりを目指します。

基本計画の策定に当たり、「中央・小川デザインプロジェクト～次の世代の施設を考えよう～」と題し、ワークショップ、アンケート、利用者及び利用団体ヒアリング、小・中学生を対象とした出前授業の実施などによって、長期的な視点で検討し、「次の世代の公共施設づくり」を見据え、市民参加で検討を進めました。



アンケートは、中央公民館周辺及び小川駅周辺エリアの施設に関して、今後期待する施設利用や活力を生み出す運営等についての意見を集め、今後の事業計画を考えていくうえでの基礎資料の一つとすることを目的に実施しました。本報告書は、平成31年2月から3月にかけて実施したアンケートの概要と結果を取りまとめたものです。

## (2) アンケートの実施概要

アンケートの内容については、「①アンケートの概要」のとおりを実施しました。

なお、配布対象や配布時期等については、「②アンケートの実施方法」のとおりを実施しています。

### ①アンケートの概要

アンケートの内容については、A群・B群と2段階構成とし、次の質問項目で作成しました。(実際の様式は、参考資料「アンケート調査票」をご覧ください。)

#### ■A群 基本事項

居住区域、年代、主に小平市内にいる時間、性別、世帯構成についての質問

#### ■B群 施設に関する調査

施設の利用頻度や現状認識、ニーズや意向についての質問

#### ■A群内容

質問項目	選択肢
1. 居住区域	1. 西部区域（中島町、上水新町、たかの台、小川町一丁目、栄町、小川西町） 2. 中央区域（小川町二丁目、小川東町、上水本町、上水南町、喜平町、津田町、学園西町、学園東町、仲町、美園町） 3. 東部区域（回田町、御幸町、鈴木町、天神町、大沼町、花小金井南町、花小金井） 4. 小平市外
2. 年代	1. 二十歳未満 2. 二十歳代 3. 三十歳代 4. 四十歳代 5. 五十歳代 6. 六十歳代 7. 七十歳以上
3. 主に小平市内にいる時間	※休日以外でお答えください 1. 一日中 2. 昼間のみ 3. 夜間のみ 4. 通勤・通学の経路のみ 5. その他（ ） 6. 小平市内には全くいない
4. 性別	1. 男性 2. 女性
5. 世帯構成	1. 一人暮らし 2. 夫婦のみ 3. 親と子 4. 三世帯 5. その他（ ）

■B 群内容

質問項目	選択肢
<p>1. 小平市の公共施設で、あなたがこの1年間で日常的に（おおむね月に1回以上）訪れている公共施設を教えてください。〈複数選択可〉</p>	<p>1. 市役所 2. 公民館 3. 図書館 4. 福社会館 5. 健康福祉事務センター 6. 地域センター 7. 出張所 8. その他（ ） 9. 特にない</p>
<p>2. 小平市の公共施設の中で、公民館と地域センターがあります。公民館は、各種講座や学習活動の場を提供するなど、社会教育の中心的施設です。地域センターは、地域住民の交流などのための集会室等を備えた施設です。あなたはこの2つの違いを知っていましたか。〈1つのみ〉</p>	<p>1. 知っていた 2. あまり知らなかった 3. 知らなかった</p>
<p>3. 小平市の公共施設全般について、あなたがよいと思うところについて教えてください。〈複数選択可〉</p>	<p>1. 施設のつくり 2. 施設の利用方法 3. 設備の充実 4. スタッフの対応 5. 施設のユニバーサルデザインへの配慮 6. 開催イベント 7. 施設間の情報共有 8. その他（ ） 9. 特にない 10. 利用したことがない</p>
<p>4. 今回の複合化等の検討における新しい施設をつくるうえで、あなたが最も重視するべきと思うことについて、次の中から選択してください。〈1つのみ〉</p>	<p>1. 市外からも人が訪れたい魅力的な施設づくり 2. 居心地のよい空間づくり 3. 誰もが使いやすいユニバーサルデザイン 4. 行政窓口業務の利便性の向上 5. 充実した市民活動や学習活動ができること 6. コストの縮減 7. その他（ ） 8. 特にない</p>
<p>5. 市では、人口減少・少子高齢化に伴う財政面等の課題も踏まえ、総延べ床面積の縮減を目指していますが、それを踏まえたうえで、あなたが新しい施設に最もほしいと思う機能を次の中から選択してください。〈1つのみ〉</p>	<p>1. カフェなどの飲食機能 2. フリースペースなどの交流の生まれる機能 3. 自習室などの勉強や学習ができる機能 4. キッズスペースなどの乳幼児が遊べる機能 5. 防音室などの楽器演奏やダンスができる機能 6. その他（ ） 7. 特にない</p>
<p>6. 公共施設の魅力向上や効率化等のために、図書館や公民館などを別々に整備するのではなく、一か所に複合化・多機能化する方法もあり</p>	<p>1. 実施すべき 2. どちらかといえば実施すべき 3. どちらかといえば実施すべきではない 4. 実施すべきではない 5. どちらともいえない</p>

質問項目	選択肢
<p>ます。あなたはこのような方法についてどう思いますか。〈1つのみ〉</p>	
<p>7. 市民サービスの向上や財政的コストの削減等のために、民間のノウハウ（技術・アイデア等）を活用し行政と民間が連携していく方法もあります。あなたはこのような方法についてどう思いますか。〈1つのみ〉</p>	<p>1. 実施すべき 2. どちらかといえば実施すべき 3. どちらかといえば実施すべきではない 4. 実施すべきではない 5. どちらともいえない</p>
<p>8. よりよい施設利用を可能にするために、標準的なものより品質の高い特別な設備やサービスを有料で利用できるようにする方法もあります。あなたはこのような方法についてどう思いますか。〈1つのみ〉</p>	<p>1. 実施すべき 2. どちらかといえば実施すべき 3. どちらかといえば実施すべきではない 4. 実施すべきではない 5. どちらともいえない</p>
<p>9. 小平市につくられる新しい施設が魅力ある公共施設であるために、あなたが最も強化すべきだと思うことについて、次の中から選択してください。〈1つのみ〉</p>	<p>1. 新たな交流や活動を生み出す情報の発信力 2. 施設デザインと使いやすい機能性の両立 3. IT機器の導入による設備の最新化 4. 施設の利用時間や利用ルールなど運営の柔軟化 5. その他（ ） 6. 特にない</p>
<p>10. 「次の世代の施設」として、あなたの考えに最も近いものを選択してください。〈1つのみ〉</p>	<p>1. にぎわいのある施設 2. 多目的な利用ができる施設 3. 子育て世代が活発に集う施設 4. 長持ちする施設 5. 若者が多く利用する施設 6. 歴史を継承する施設 7. 高齢者の生きがいを創出する施設 8. ユニバーサルデザイン施設 9. シンプルな施設 10. その他（ ）</p>
<p>11. 小川駅西口には、約 1,000 m<sup>2</sup>（テニスコート4面分くらいの広さ）の広場ができる予定です。あなたはそこがどのような広場であつたらいいと思いますか。〈1つのみ〉</p>	<p>1. 子どもが遊べる広場 2. 市民が演目発表できる広場 3. 飲食等も可能な自由度の高い広場 4. マルシェ（市場）などのイベントが開催される広場 5. 市民活動などで活用できる広場 6. 小平市の歴史・文化などと接することができる広場 7. その他（ ） 8. 特にない</p>

## ②アンケートの実施方法

配布時期については、平成31年2月から3月に行いました。

配布対象については、まず、中央エリアと小川エリアに分けてから、配布先の対象を絞りました。対象を絞ることにより、学生から高齢者まで、子育て中の方や働いている方、障がいのある方も含めて、様々な方から意見をいただくことを企図しました。

配布方法については、近隣住民についてはポスティング配布、その他の対象には個別訪問により配布を行いました。

回収方法については、近隣住民については郵送回収を行い、その他の対象には個別訪問により回収を行いました。

対象分類	中央エリア	小川エリア
学生	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小平高校（第2学年）</li> <li>・国際パティシエ調理師専門学校</li> <li>・津田塾大学小平キャンパス</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・明治学院東村山高校（第1学年）</li> <li>・職業能力開発総合大学校</li> </ul>
在勤者	<ul style="list-style-type: none"> <li>・NTT（小平ビル）</li> <li>・JA 東京むさし小平支店</li> <li>・多摩信用金庫学園東支店</li> <li>・一橋病院</li> <li>・学園坂商店会</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ブリヂストン技術センター /東京 AC タイヤ製造所</li> <li>・JA 東京むさしたかの台支店</li> <li>・多摩信用金庫小平支店</li> <li>・緑成会病院</li> <li>・中宿商興会</li> </ul>
子育て世代	<ul style="list-style-type: none"> <li>・仲町保育園</li> <li>・洗心幼稚園</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小川西保育園</li> <li>・丸山幼稚園/保育園</li> </ul>
障がい者	<ul style="list-style-type: none"> <li>・あさやけ作業所（第一、第二）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・たいよう福祉センター</li> <li>・あい</li> <li>・おだまき</li> </ul>
近隣住民	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中央エリア周辺</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小川駅西口周辺</li> <li>・萩山団地周辺</li> </ul>

※名称については、略称を用いています。

### ③アンケートの集計結果

配布部数及び回収部数は、以下のとおりです。

対象分類	エリア	対象	配布部数	回収部数	回収率
学生	中央	小平高校（第2学年）	280	269	96%
		国際パティシエ調理師専門学校	80	64	80%
		津田塾大学小平キャンパス	400	16	4%
	小川	明治学院東村山高校（第1学年）	270	252	93%
		職業能力開発総合大学校	50	36	72%
	小計			1,080	637
在勤者	中央	NTT（小平ビル）	10	10	100%
		JA 東京むさし小平支店	10	9	90%
		多摩信用金庫学園東支店	22	22	100%
		一橋病院	30	19	63%
		学園坂商店会	40	7	18%
	小川	ブリヂストン技術センター /東京 AC タイヤ製造所	50	36	72%
		JA 東京むさしたかの台支店	12	12	100%
		多摩信用金庫小平支店	32	32	100%
		緑成会病院	100	20	20%
		中宿商興会	23	12	52%
	小計			329	179
子育て世代	中央	仲町保育園	120	42	35%
		洗心幼稚園	270	124	46%
	小川	小川西保育園	100	29	29%
		丸山幼稚園/保育園	480	142	30%
	小計			970	337
障がい者	中央	あさやけ作業所（第一、第二）	100	30	30%
	小川	たいよう福祉センター	24	12	50%
		あい	2	0	0%
		おだまき	20	14	70%
	小計			146	56



対象 分類	エリア	対象	配布 部数	回収 部数	回収率
近隣住民	中央	中央エリア近隣住民	280	42	15%
	小川	小川駅西口近隣住民	960	185	19%
		萩山団地周辺近隣住民	562	118	21%
		小計	1,802	345	19%
合計		中央	1,642	654	40%
		小川	2,685	900	34%
		総数	4,327	1,554	36%

#### ④報告書の見方

ア 集計は、小数点第1位を四捨五入しています。したがって、数値の合計が100.0%ちょうどにならない場合があります。

イ 本文や図表中の選択肢表記は、場合によっては語句を短縮・簡略化している場合があります。

ウ このアンケートは、中央・小川のエリアごとに配布対象を絞って実施しており、配布部数や回収率は対象により大きく異なっています。このため、集計結果の割合にはバイアス（統計標本における偏り）が含まれたものがあります。

## 2. 全体的な集計結果と傾向

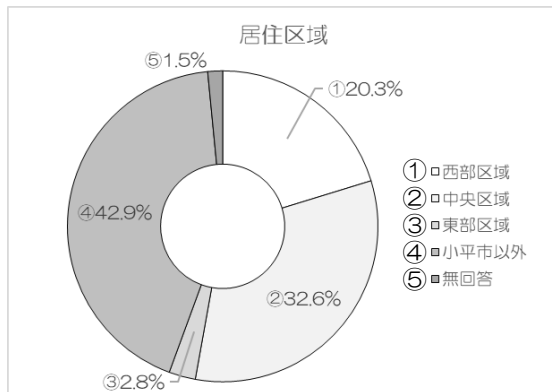
全体的な集計は、総数 1,554 人分の回収結果で行っています。

以降の円グラフの割合(%)は、分母を 1,554 とした場合の各回答数の割合です。

※ただし、複数回答可の場合は、(※)の数字を分母とします。

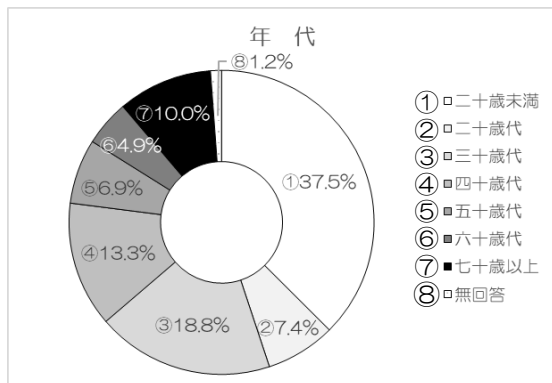
### (1) 回答者の傾向

#### 【A：設問1 居住区域】



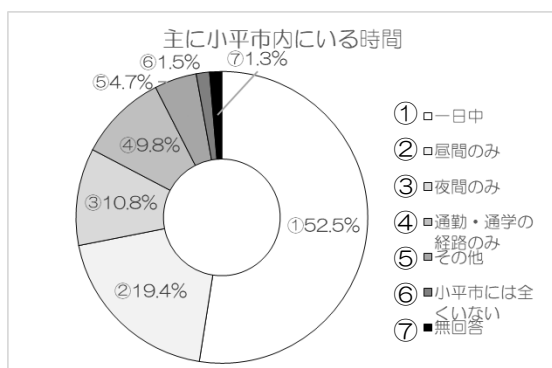
「居住区域」については、主な対象と想定していた中央区域(32.6%)・西部区域(20.3%)よりも、小平市以外の方が42.9%と多くなりました。

#### 【A：設問2 年代】



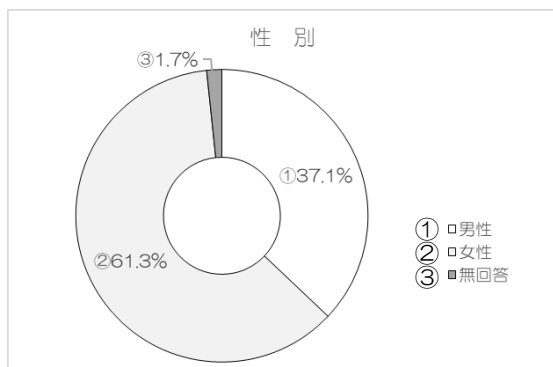
「年代」については、20歳未満が37.5%と最も多い結果になりました。

#### 【A：設問3 主に小平市内にいる時間】



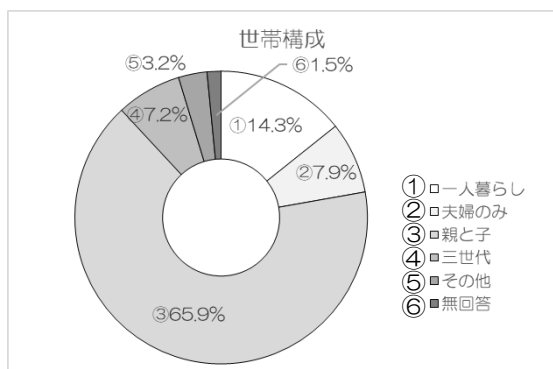
「主に小平市内にいる時間」については、半数以上が「一日中」と回答しています。

【A：設問4 性別】



「性別」については、女性の方が多い結果となりました。

【A：設問5 世帯構成】

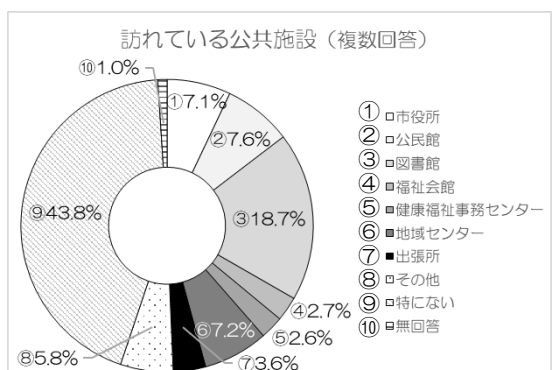


「世帯構成」については、最も多い「親子」が65.9%で、次いで「一人暮らし」が14.3%でした。

(2) 各種回答傾向

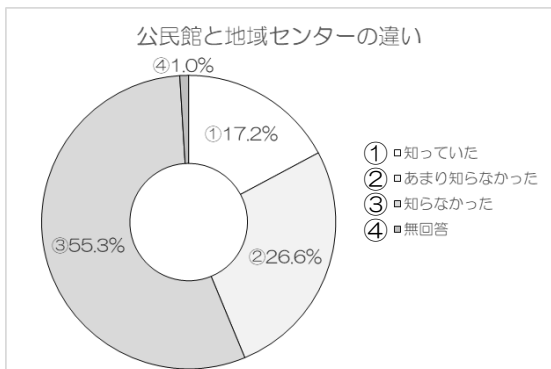
B群の設問1～11についての回答傾向は、下記のとおりとなりました。

【B：設問1 訪れている公共施設】（※複数回答可のため、1,956中の割合）



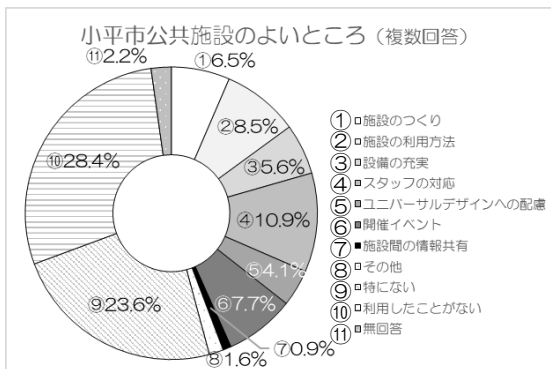
「訪れている公共施設」については、「特にない」が最も多く43.8%で、次いで「図書館」の18.7%でした。

【B：設問2 公民館と地域センターの違い】



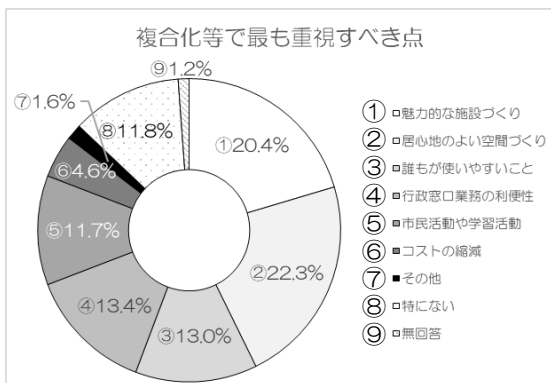
「公民館と地域センターの違い」については、「知らなかった」が最も多い結果でした。

【B：設問3 小平市公共施設のよいところ】（※複数回答可のため、1,838 中の割合）



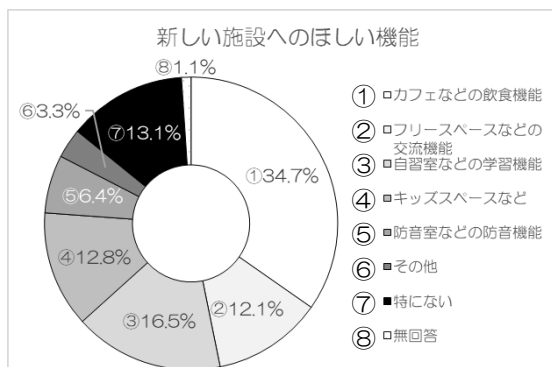
「小平市公共施設のよいところ」については、「利用したことがない」、「特にない」が合わせて52%と多い結果となりました。

【B：設問4 複合化等で最も重視すべき点】



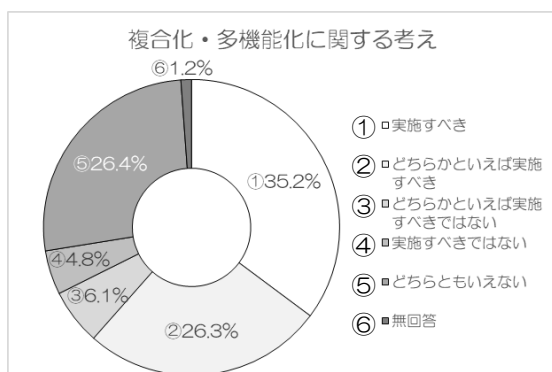
「複合化等で最も重視すべき点」については、「居心地のよい空間づくり」が最も多い回答でした。

【B：設問5 新しい施設へのほしい機能】



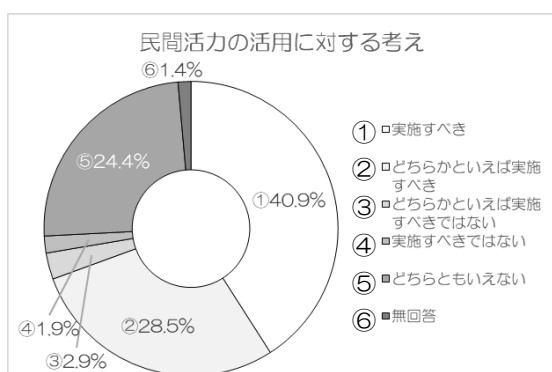
「新しい施設へのほしい機能」については、「カフェなどの飲食機能」が最も多い結果となりました。

【B：設問6 複合化・多機能化に関する考え】



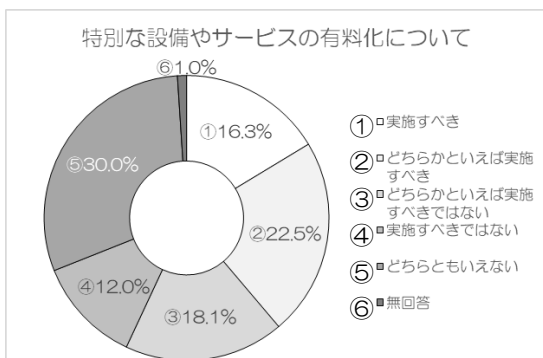
「複合化・多機能化に関する考え」については、「実施すべき」、「どちらかといえば実施すべき」を合わせると61.5%という結果となりました。

【B：設問7 民間活力の活用に対する考え】



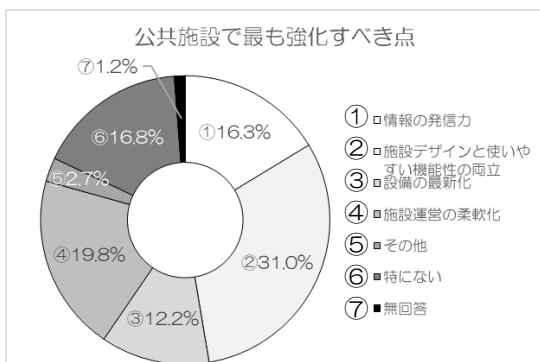
「民間活力の活用に対する考え」については、「実施すべき」、「どちらかといえば実施すべき」を合わせると69.4%という結果となりました。

【B：設問8 特別な設備やサービスの有料化について】



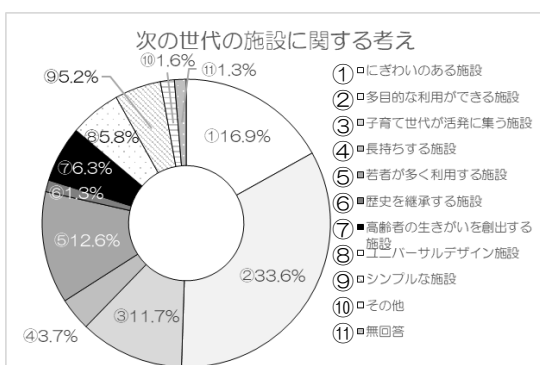
「特別な設備やサービスの有料化について」は、「実施すべき」、「どちらかといえば実施すべき」を合わせると38.8%、「実施すべきではない」、「どちらかといえば実施すべきではない」を合わせると30.1%となりました。

【B：設問9 公共施設で最も強化すべき点】



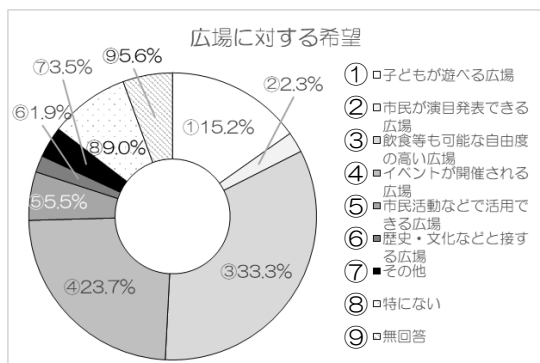
「公共施設で最も強化すべき点」については、「施設デザインと使いやすい機能性の両立」が31%と最も多く、次いで、「施設運営の柔軟化」19.8%、「特にない」16.8%、「情報の発信力」16.3%という結果になりました。

【B：設問10 次の世代の施設に関する考え】



「次の世代の施設に関する考え」については、「多目的な利用ができる施設」が最も多い結果で33.6%、次いで「にぎわいのある施設」16.9%、「若者が多く利用する施設」12.6%、「子育て世代が活発に集う施設」11.7%となりました。

【B：設問 11 広場に対する希望】



「広場に対する希望」については、「飲食等も可能な自由度の高い広場」が最も多い33.3%、次いで「イベントが開催される広場」23.7%、「子どもが遊べる広場」15.2%となりました。「その他」では、ボールなどを使って軽いスポーツができる広場、国際交流の機会がある広場、緑が多い広場、ピクニックが気軽にできる広場などがありました。

### 3. 中央エリア・小川エリアの集計結果と傾向

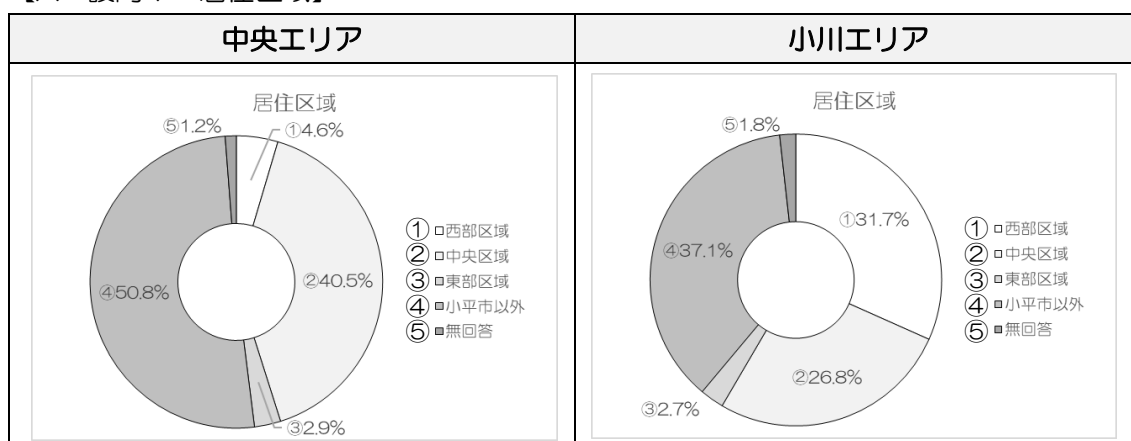
中央エリアの集計は、総数 1,554 人分のうち、654 人分の回答となっています。以降の円グラフの割合（％）は、分母を 654 とした場合の各回答数の割合です。

小川エリアの集計は、総数 1,554 人分のうち、900 人分の回答となっています。以降の円グラフの割合（％）は、分母を 900 とした場合の各回答数の割合です。

※ただし、複数回答可の場合は、（※）の数字を分母とします。

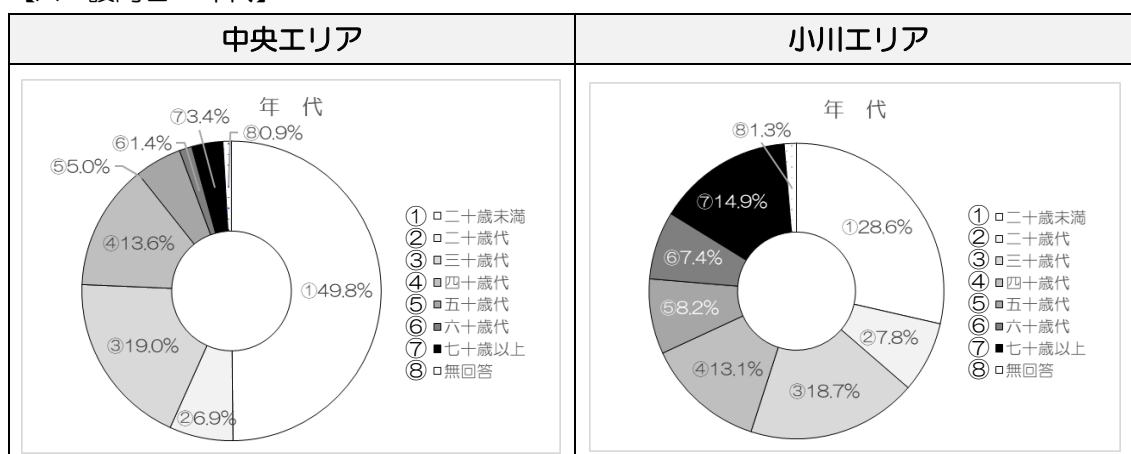
#### （1）回答者の傾向

【A：設問1 居住区域】



「居住区域」については、学生の市外居住が多いこと、在勤者等の居住区域が様々であったことから、小平市以外の居住区域の割合が多い結果となりました。

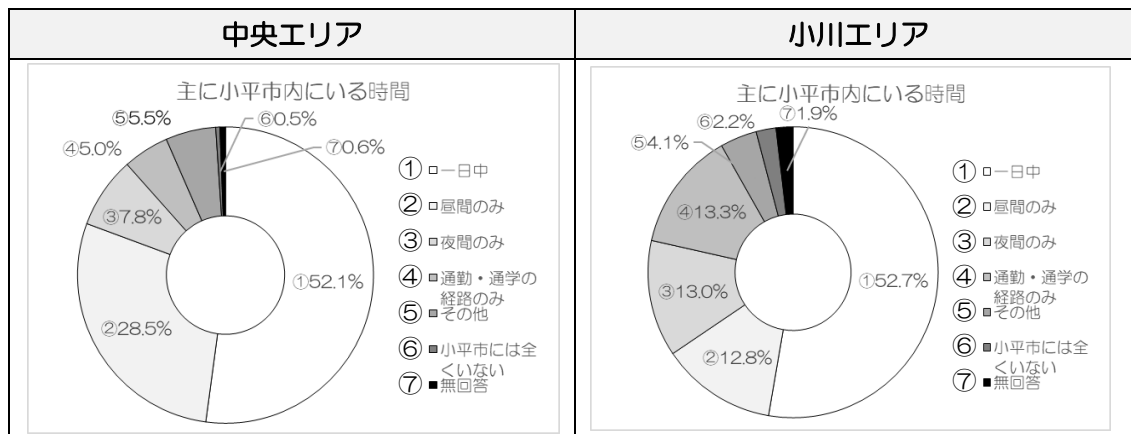
【A：設問2 年代】



「年代」については、中央エリアは 20 歳未満の割合が多く、小川エリアは 50 歳代以上の割合が多い結果となりました。

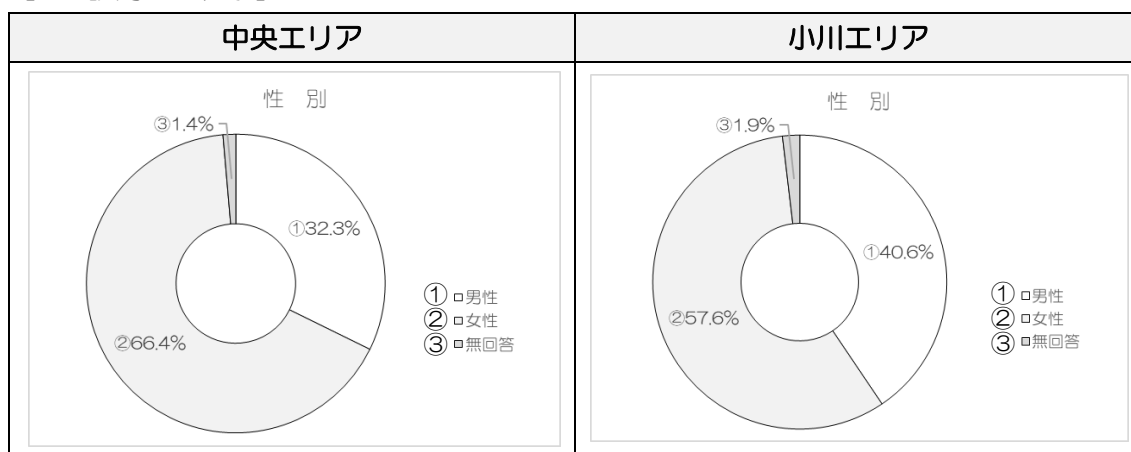


【A：設問3 主に小平市内にいる時間】



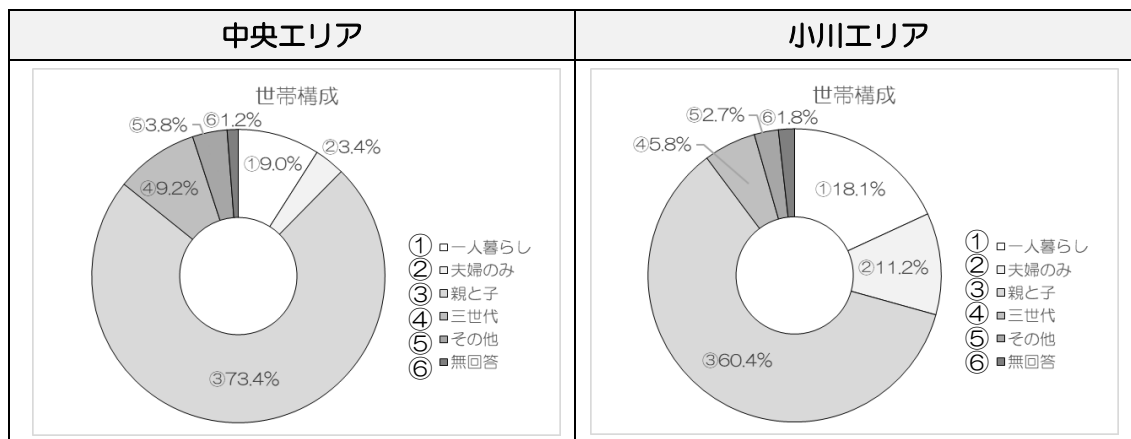
「主に小平市内にいる時間」については、「一日中」が中央・小川両エリアを通じて最も多く、「昼間のみ」は中央エリアの方が多くなりました。

【A：設問4 性別】



「性別」については、中央・小川両エリアに大きな差はありませんでしたが、全体的に女性の方が多くなりました。

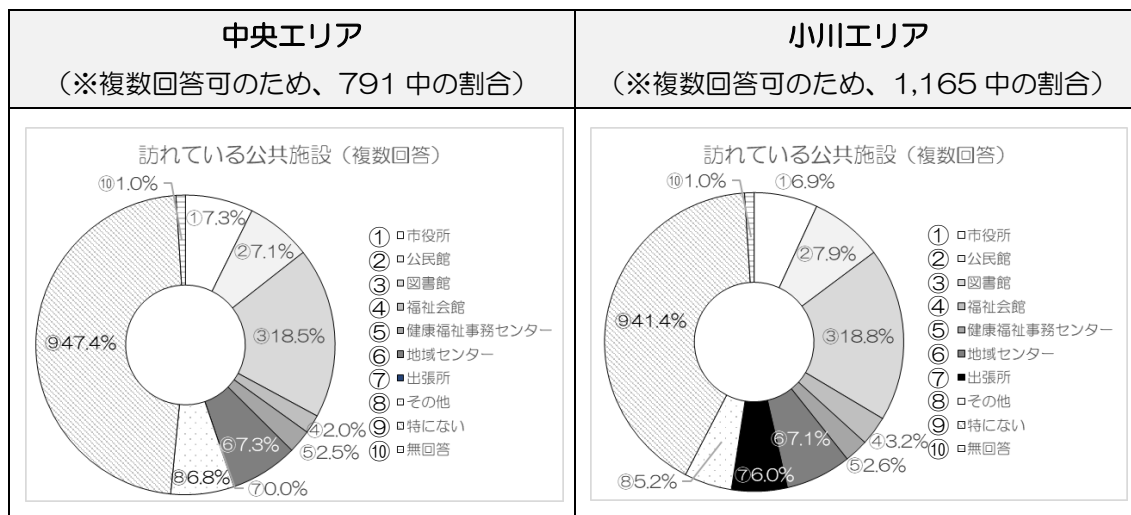
【A：設問5 世帯構成】



「世帯構成」については、中央・小川両エリア共に、「親と子」が多くなりました。

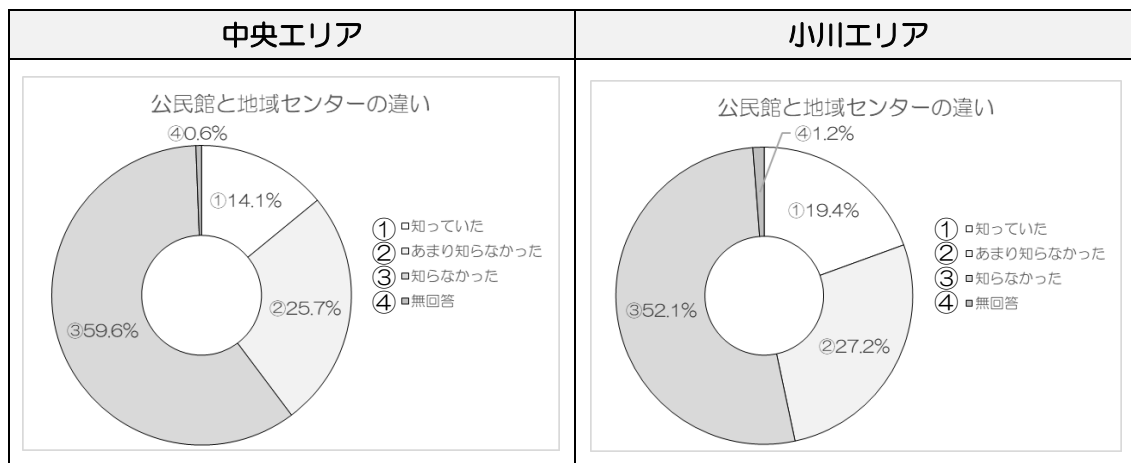
(2) 各種回答傾向

【B：設問1 訪れている公共施設】



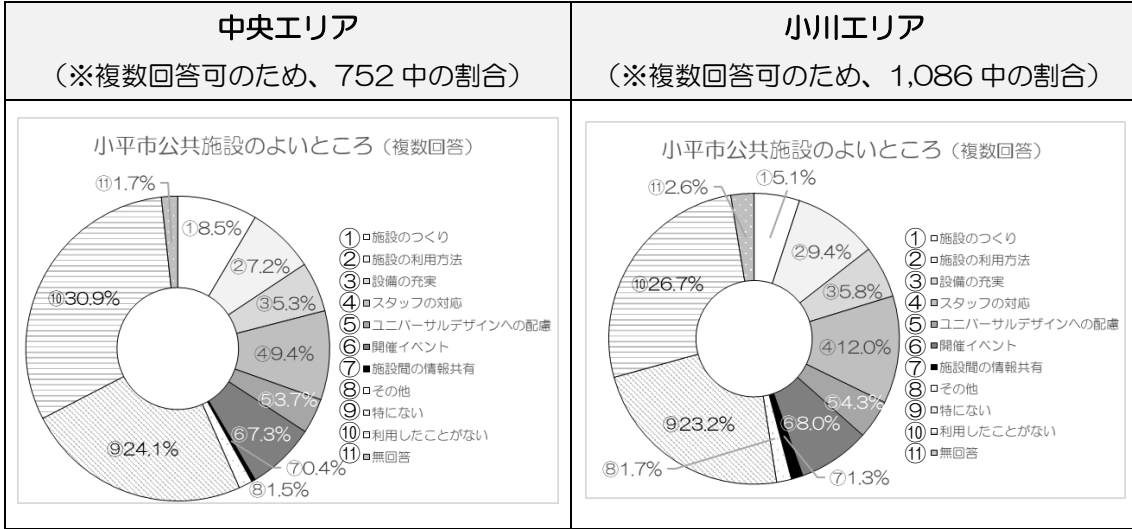
「訪れている公共施設」については、中央・小川両エリア共に、「特にない」が40%以上で最も多い結果となりました。次に多いのが「図書館」で18%ほどとなっており、「市役所」「公民館」「地域センター」と続いています。また、小川エリアについては、市役所機能として「出張所」の利用が6.0%という結果になっています。

【B：設問2 公民館と地域センターの違い】



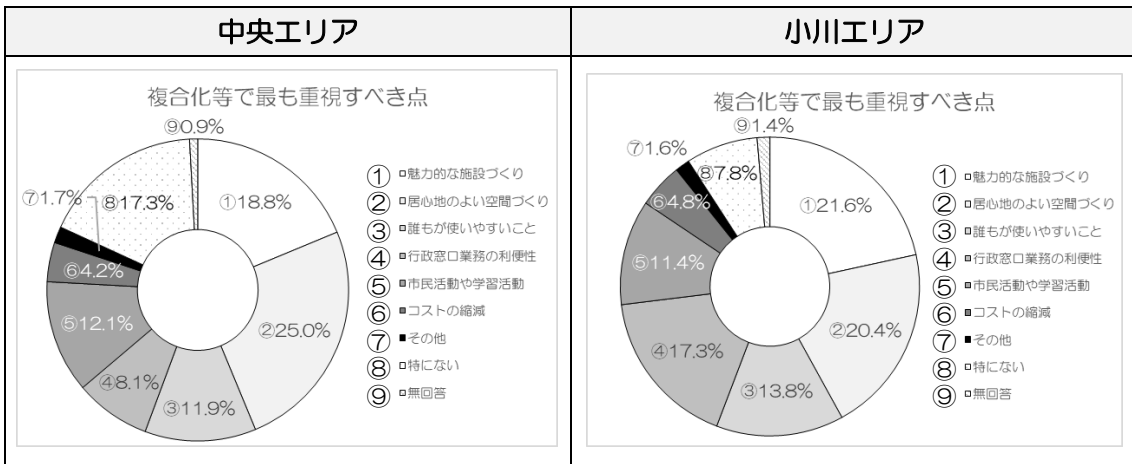
「公民館と地域センターの違い」については、中央・小川両エリア共に、合わせて8割ほどの人が知らない傾向にありました。

【B：設問3 小平市公共施設のよいところ】



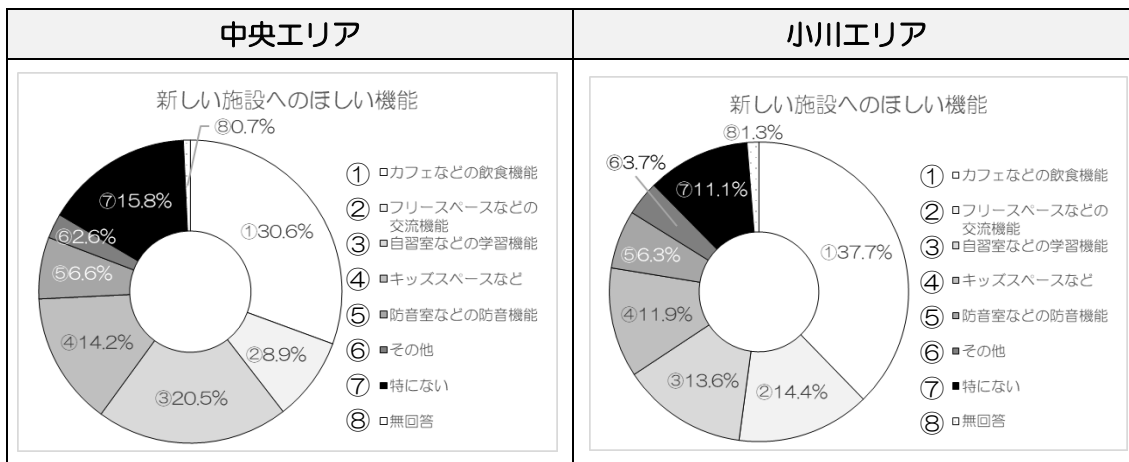
「小平市公共施設のよいところ」については、中央・小川両エリア共に「特にない」、「利用したことがない」が多く、全体の50%以上という結果でした。利用者の回答としては、「スタッフの対応」が若干他よりも多く、「その他」については、ほぼ中央・小川両エリア同じような回答であり、施設の設備面より職員の対応や企画などへの評価が多い傾向にありました。

【B：設問4 複合化等で最も重視すべき点】



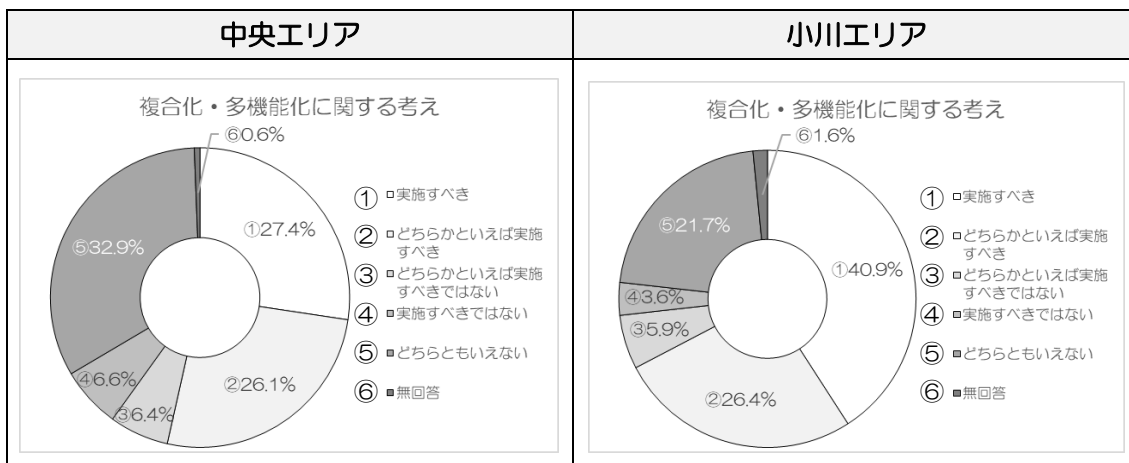
「複合化等で最も重視すべき点」については、中央・小川両エリアほぼ同様の割合でしたが、中央エリアの方が「居心地のよい空間づくり」が多かったことと、小川エリアの方が「魅力的な施設づくり」を重視する割合が多かったことが特徴です。

【B：設問5 新しい施設へのほしい機能】



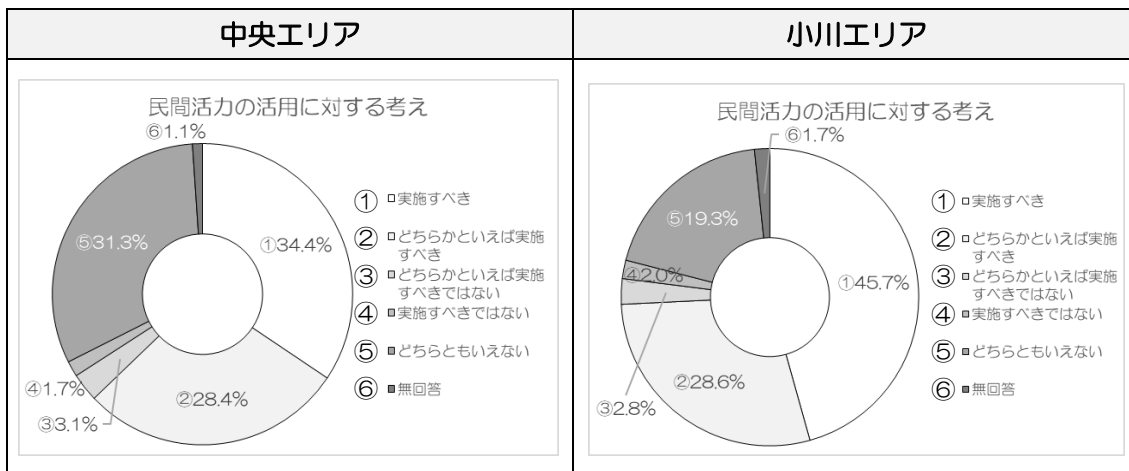
「新しい施設へのほしい機能」については、「カフェなどの飲食機能」を求める意見が多い結果となりました。「自習室などの学習機能」は中央エリアの方が多く、「フリースペースなどの交流機能」は小川エリアの方が多く結果となりました。

【B：設問6 複合化・多機能化に関する考え】



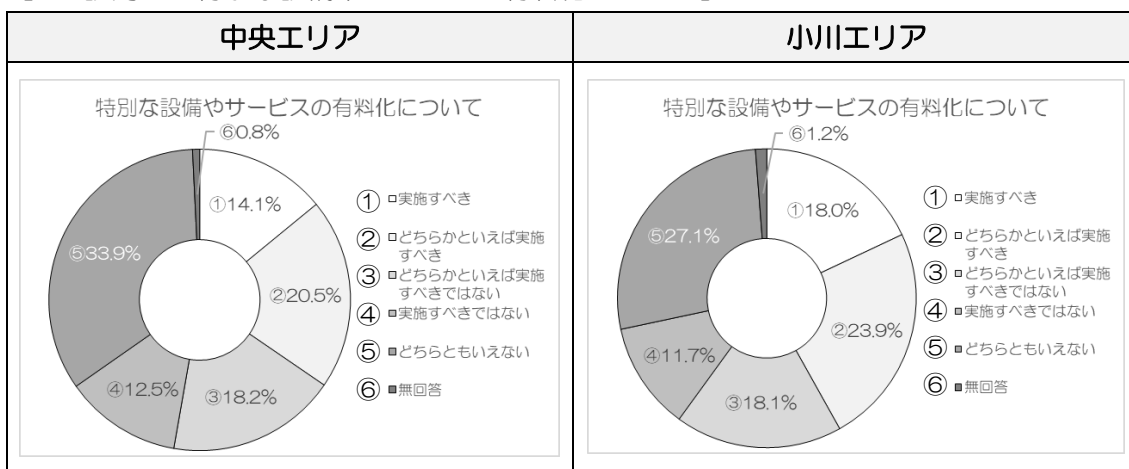
「複合化・多機能化に関する考え」については、半数以上が実施することに前向きな傾向にありました。小川エリアの方は「実施すべき」、「どちらかといえば実施すべき」の合計が67.3%でしたが、中央エリアの方は53.5%となり、小川エリアよりも低い結果となりました。

【B：設問7 民間活力の活用に対する考え】



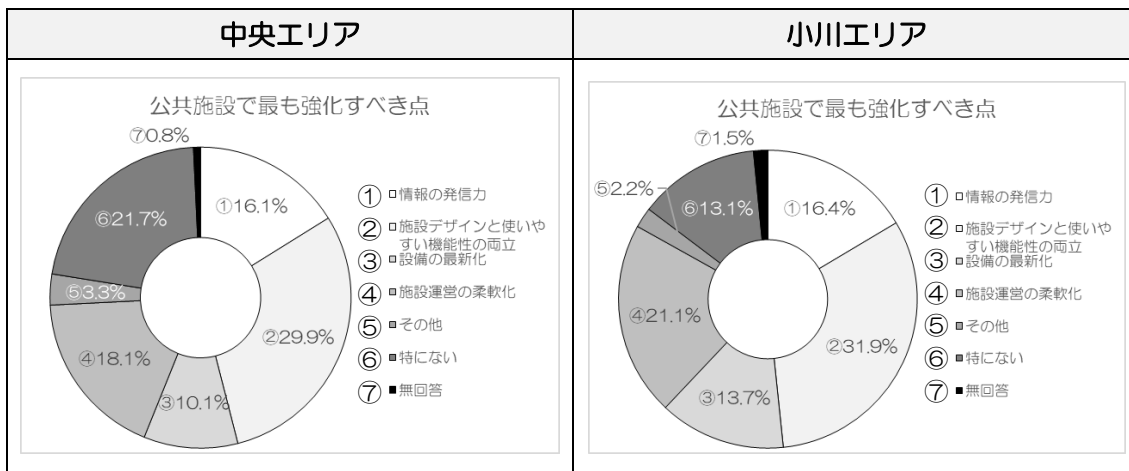
「民間活力の活用に対する考え」については、中央・小川両エリア共に「実施すべき」が最も多いという結果になりました。「どちらかといえば実施すべき」も含めると、中央エリアで60%以上、小川エリアで70%以上の人が、実施することを前向きに捉えている傾向になりました。

【B：設問8 特別な設備やサービスの有料化について】



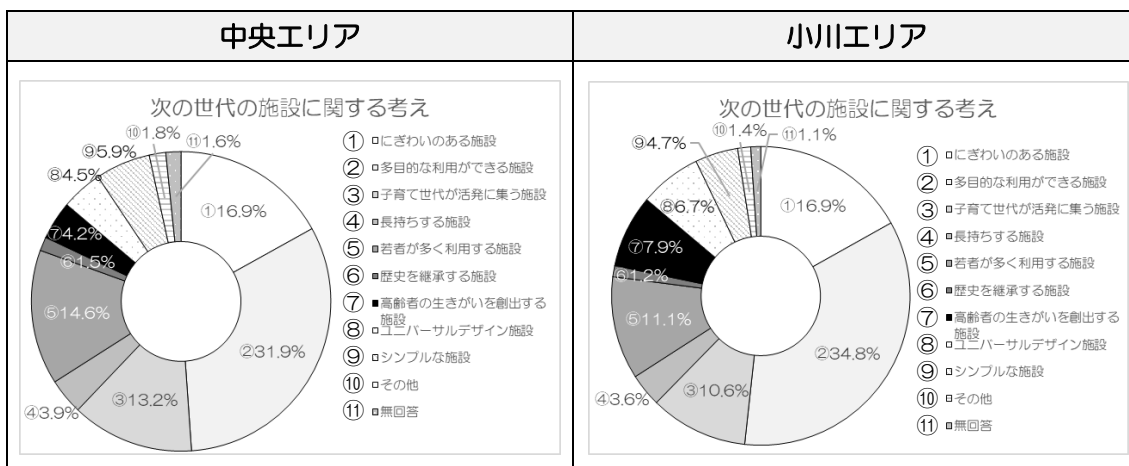
「特別な設備やサービスの有料化について」は、中央・小川両エリアほぼ同じような割合の傾向が見られました。「どちらともいえない」が最も多く、メリットもあればデメリットもあるのではないかと考えている可能性が窺えます。「実施すべき」、「どちらかといえば実施すべき」と、「実施すべきではない」、「どちらかといえば実施すべきではない」との比率は、中央エリアで34.6%対30.7%、小川エリアで41.9%対29.8%という結果でした。

【B：設問9 公共施設で最も強化すべき点】



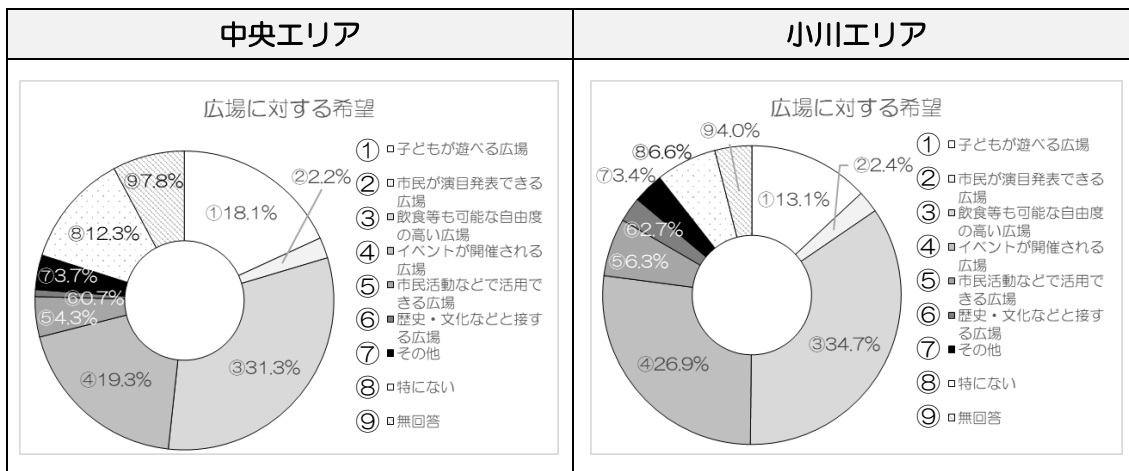
「公共施設で最も強化すべき点」については、中央・小川両エリア共に「施設デザインと使いやすい機能性の両立」が最も多く、次に、「施設運営の柔軟化」、「情報の発信力」となりました。

【B：設問10 次の世代の施設に関する考え】



「次の世代の施設に関する考え」については、中央・小川両エリアで最も多いのは、「多目的な利用ができる施設」で、次に「にぎわいのある施設」、「若者が多く利用する施設」、「子育て世代が活発に集う施設」という結果でした。

【B：設問 11 広場に対する希望】



小川駅西口に整備する予定の「広場に対する希望」については、中央・小川両エリアで「飲食等も可能な自由度の高い広場」が最も多い結果となりました。小川エリアの方が少し「イベントが開催される広場」の回答が多く、その他の回答については、ほぼ同じようなバランスという傾向になりました。

(3) 近隣住民に特化した傾向と分析

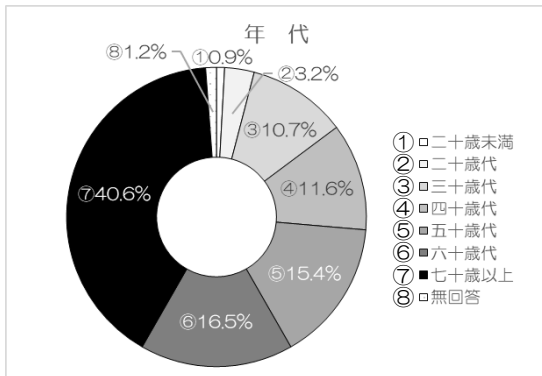
近隣住民対象の集計は、総数 1,554 人分のうち、中央・小川の両エリアを合わせて、345 人分の回答となっています。

そのうち、中央エリアの近隣住民の回答は、42 人分であり、小川エリアの近隣住民の回答は、303 人分となっています。

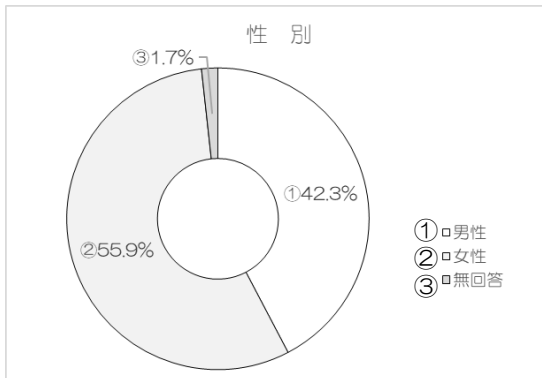
以降の円グラフの割合 (%) は、中央エリアが分母を 42、小川エリアが分母を 303 とした場合の各回答数の割合です。

※ただし、複数回答可の場合は、(※) の数字を分母とします。

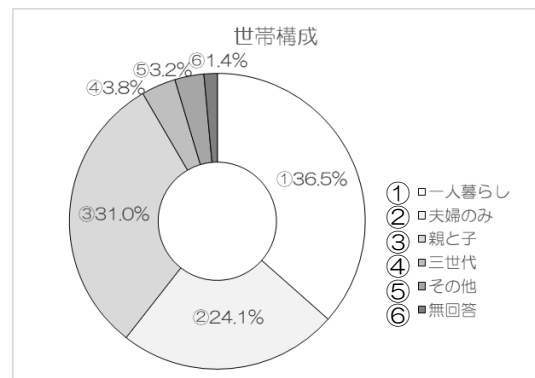
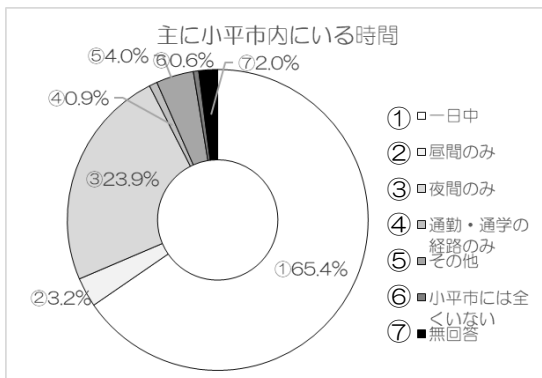
近隣住民を対象とした 345 人分について、中央エリアと小川エリアの回収結果の割合は、中央エリアが 12.2%、小川エリアが 87.8%となっています。小川エリアについては、小川駅西口近隣住民のみではなく、萩山団地周辺近隣住民にも配布しており、元々の配布数が多いため、分母に大きな差があります。



「年代」については、20歳未満が0.9%、20歳代が3.2%と、20歳代以下が少ないですが、30歳代が10.7%、40歳代が11.6%、50歳代が15.4%、60歳代が16.5%と、30～60歳代については、大きな偏りはありませんでした。また、70歳代以上が40.6%でした。



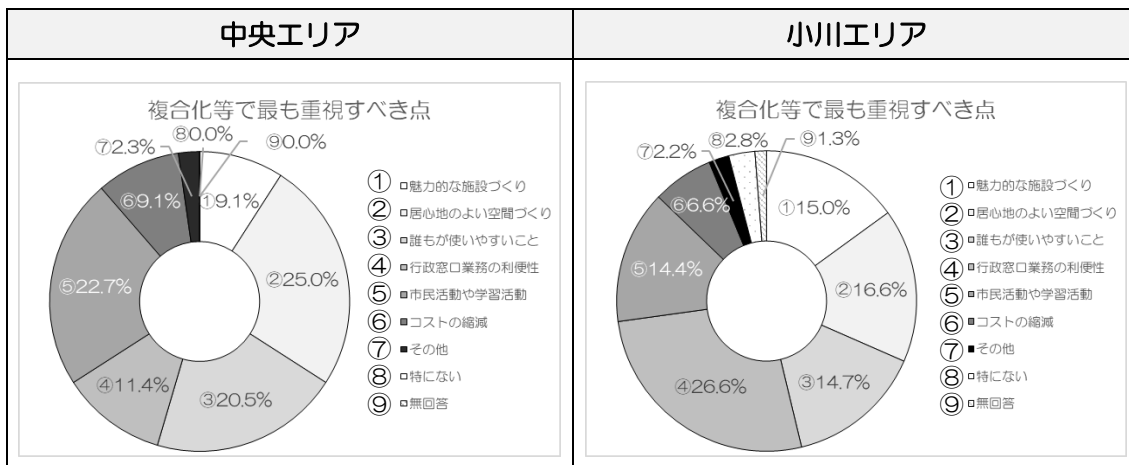
「性別」については、男性が42.3%、女性が55.9%という結果でした。また、「主に小平市内にいる時間」については、「一日中」が最も多く、「世帯構成」は、「一人暮らし」が最も多いという状況でした。



中央エリアの近隣住民と小川エリアの近隣住民の回答の傾向は、多くが、中央エリアと小川エリアの全体集計結果と大きく変わらない結果でした。そのため、近隣住民対象の集計結果から、中央及び小川のそれぞれのエリアによって結果に特徴のあったものについてのみ、抜粋します。

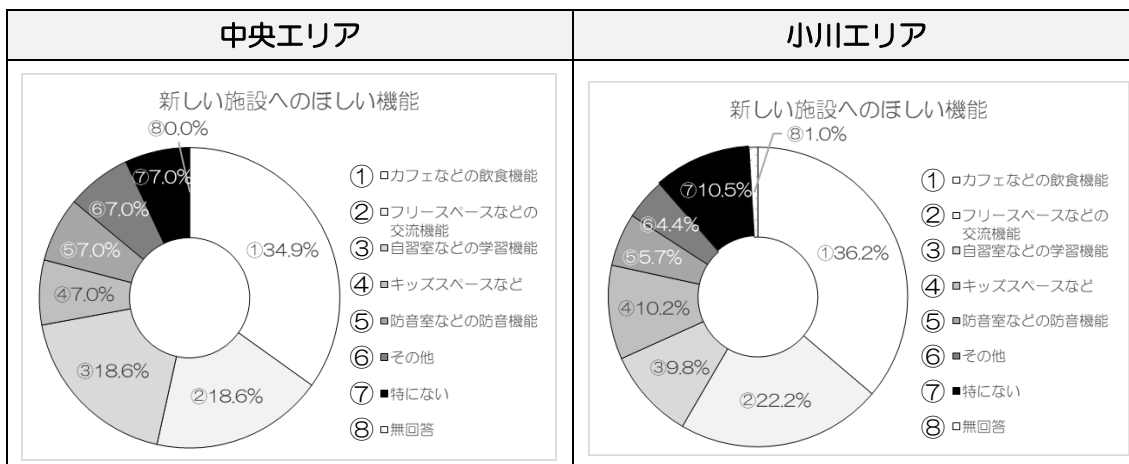


【B：設問4 複合化等で最も重視すべき点】



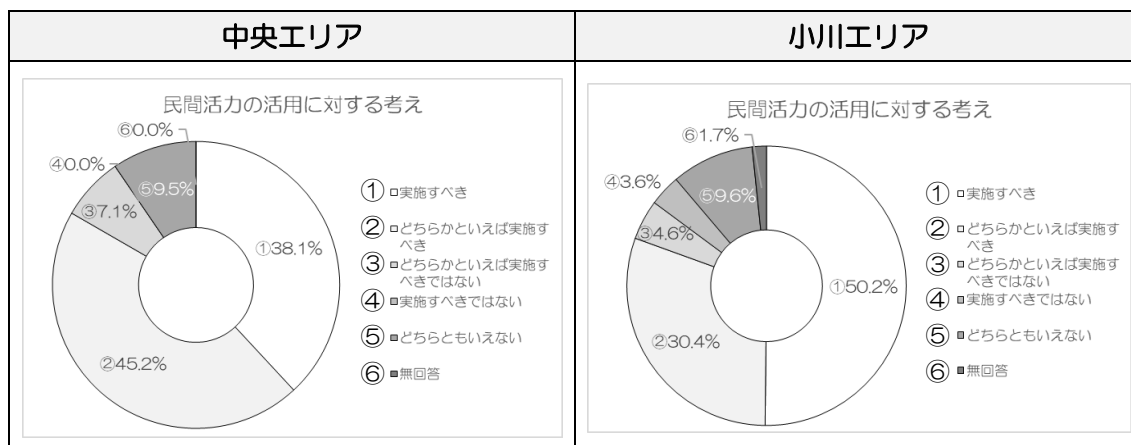
「複合化等で最も重視すべき点」については、中央エリアの方が、「居心地のよい空間づくり」、「誰もが使いやすいこと」、「市民活動や学習活動」を重視すべきという傾向が強く、小川エリアの方が、「行政窓口業務の利便性」を重視する割合が多かったことが特徴です。

【B：設問5 新しい施設へのほしい機能】



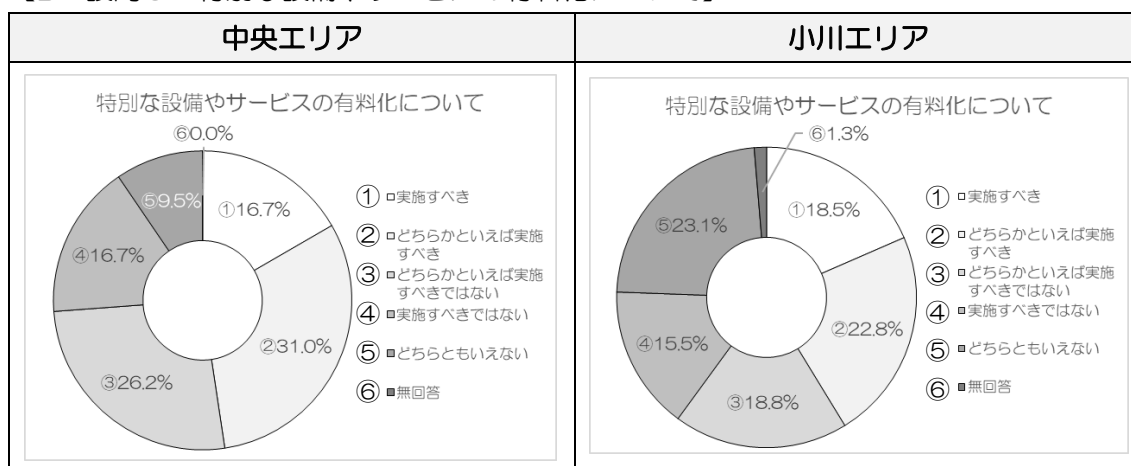
「新しい施設へのほしい機能」については、全体集計結果と比較すると、中央・小川両エリア共に「フリースペースなどの交流機能」を求める割合が多かったことが共通しています。

【B：設問7 民間活力の活用に対する考え】



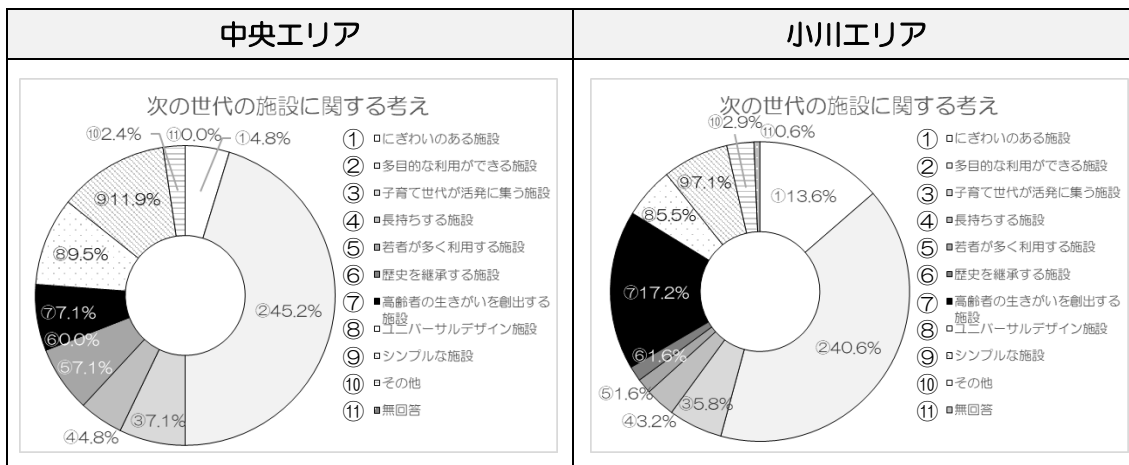
「民間活力の活用に対する考え」については、「実施すべき」と「どちらかといえば実施すべき」の合計が、中央エリアで83.3%、小川エリアで80.6%という高い割合の結果でした。なお、中央エリアでは、「実施すべきではない」が0.0%でした。

【B：設問8 特別な設備やサービスの有料化について】



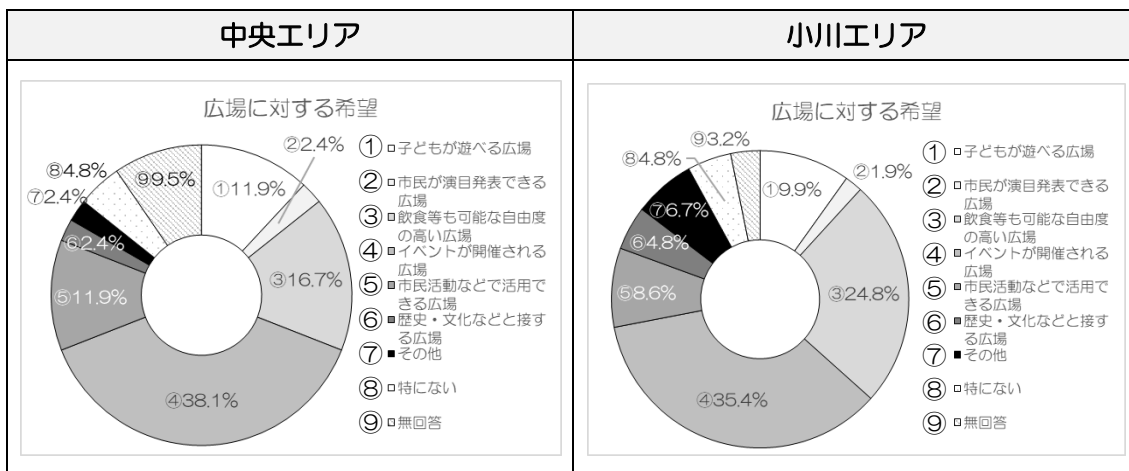
「特別な設備やサービスの有料化について」は、中央・小川両エリアでほぼ同じような割合の傾向が見られました。全体集計結果と同様、中央・小川両エリア共に、「実施すべき」と「どちらかといえば実施すべき」の合計が、「どちらかといえば実施すべきではない」と「実施すべきではない」を少し上回る結果となっています。

【B：設問 10 次の世代の施設に関する考え】



「次の世代の施設に関する考え」については、中央・小川両エリア共に、全体集計結果と比べて「若者が多く利用する施設」の割合が少なく、逆に、「高齢者の生きがいを創出する施設」の割合が多かったことが特徴として挙げられます。また、「シンプルな施設」の割合も若干多いという結果になりました。

【B：設問 11 広場に対する希望】



小川駅西口に整備する予定の「広場に対する希望」については、全体集計結果では「飲食等も可能な自由度の高い広場」が、最も高い傾向にありました。しかし、近隣住民対象の結果としては、「イベントが開催される広場」が、中央エリアで38.1%、小川エリアで35.4%と、最も高い割合になったことが、大きな特徴となりました。